

目指す学校像	進んで学び、心豊かで心身ともにたくましい児童を育成する、花と歌と愛にあふれる学校
--------	--

重点目標	1 情報端末を活用した「個別最適化した学び」の実現と集団で学ぶよさを生かした授業改革 2 「認め、褒め、励ます教育」の実践による、児童の自己肯定感の育成 3 保護者・地域との信頼関係のもと、コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動 4 教職員一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる教職員研修
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の算数・国語の結果については、近年伸びが見られる。 ○日頃の学習の様子から、自らの興味があることについて調べ、発表することに意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「知識・技能」の定着が不十分な児童がおり、結果の二極化傾向がみられる。 ○「算数の授業が好きだ」に対する肯定的な回答が下降傾向にある。	・主体的に学ぶ力を付ける、情報端末の活用と授業改善 ・学ぶ意義や楽しさを実感する「総合的な学習の時間」の実施	①研究指定校として教育DXによる個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びを実践するため、「仮説を立て、授業し、検証する」サイクルでの、公開授業を、情報端末の活用を必須として全教員が実施する。 ②スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し、児童が目標をもって学習できるようにする。	①公開授業を全教員が実施することができたか。 ②国語、算数について、全児童に対して学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。						
2	<現状> ○学校評価において「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的な回答が88%である。また、「学校は子どものよさを見付け、伸ばそうとしている」の保護者の肯定的な回答は81%である。 ○開校16年目を迎え、施設の不具合が様々始めている。 <課題> ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが課題である。 ○大きな瑕疵については修繕に時間がかかる。児童の安全にかかる修繕については安全点検を確実に行う必要がある。	・児童一人ひとりのニーズに応じた支援に向けた校内体制の充実 ・施設・設備の管理の徹底による安全な生活の実現	①「認め・褒め・励ます」声掛けについて全教職員で共有し、実施する。 ②家庭と協働による道徳教育を実現するため道徳の授業公開を行う。 ③教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援を行う。	①学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答が増加したか。 ②全学級で道徳の授業公開ができたか。 ③学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が増加したか。						
3	<現状> ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「児童の自己肯定感を高め、様々なことにチャレンジする意欲をはぐくむこと」に地域全体で取り組んでいくことを共有した。 <課題> ○昨年度は共有の取組として「あいさつ運動」から取り組んだが、家庭・地域に浸透するまで至っていない。 さらに、目指す児童像の実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組みを開始する必要がある。	・目指す児童像の姿を地域で共有するための、学校・家庭・地域の公開 ・目指す児童像の実現のための、学校・家庭・地域の具体的方策の決定と行動	①学校ホームページに、児童の活動の様子や、学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、月3回以上更新する。 ②地域の方をお呼びして共に学ぶ活動を計画的に実施する。	①ホームページを月3回以上更新できたか。 ②外部人材をお呼びして共に学ぶ活動を実施できたか。 ③学校・家庭・地域で協働した行事を実施できたか。 ④アクションプランを作成できたか。						
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの効果的な活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 ○全教員の年3回の公開授業を中心に据えた研修を進めている。 <課題> ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。様々な取組にチャレンジする風土づくりが求められる。 ○若手とベテランの二極化の年齢構成のため、年齢層を超えて学び合う仕組みづくりが求められる。	・一人ひとりがもてる力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる研修の実施	①教職員集団で協力して資質を高めるため、学校課題研修をメンター・メンティ手法を用いた体制とする。 ②年間を通して、全ての教員がICTを用いた公開授業を実施する。	①学校課題研修をメンター・メンティ手法を用いた体制を確立できたか。 ②年間を通して全ての教員がICTを用いた公開授業を実施できたか。						

